晴れのち雷（魔法注意報）

夢乃良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
晴れのち雷（魔法注意報）

【Ｎコード】
Ｎ２４６４Ｄ

【作者名】
夢乃良

【あらすじ】
元気で明るいナナカと大人しめなトシが巻き込まれる魔法な世界の物語。魔法ってこの世界にもあったんだ！？

プロローグ<トシ>（前書き）

トシの視点でプロローグはスタートです。

プロローグ<トシ>

「おっはよー！」
背中をどーんと華奢な身体には不釣り合いな勢いで背中を叩かれた。
幼なじみのナナカだ。
「げほっ・・・お早うナナカ」
「そんなにトロトロ歩いてたら学校つくの夕方になっちゃうよー？」
カバンを振り回す勢いで本人もくるくる回る。
短めなセーラー服の裾が少し持ち上がって・・・ちょっと見えそうなきわどいラインに目が奪われるところだった。
本人に知られたらさっき叩かれたどころではない自体になるのは分かっていたので何も言わないことにする。
「なによトシ。変な顔しちゃって」
「べっ、別に何もないよ？」
「へんなのー。早くしなさいよー遅刻遅刻っ」
「そんなに急がなくても間に合うと思うよ？」
「なーに言ってんの。青春は待っててくれないのよー？」
「そんな年寄り・・・いだぁっ」
「アタシはまだぴっちぴちの１７歳ですよー！」
と口調は軽かったけど、尻にあたったのは辞書で重くなってる革鞄。
フルスイングだった。
鞄の金具跡でもついてるんじゃないかと、尻をさすっていたら
「ナニコレー？」
疑問符というより「困った」も含まれてるナナカの声。
良く見たら大きな黒い帽子がナナカの頭に乗っかっていた。
正確にはサイズが大きすぎて、ナナカの顎あたりまですっぽりと帽子が覆っていた。
マンガとかで言うならば魔法使いが好んでかぶりそうなとんがり帽子。

てっぺんというか先っちょと言うか・・・はご丁寧にほんの少し折れ曲がっていていかにもソレらしい。

プロローグ<トシ>（後書き）

少しでもみなさんが登場人物達と一緒にドキドキできたらいいなと思ってガンバリマス

1：暗闇の魔法＜ナナカ＞

「なにこれ？」
風が吹いたのは分かったけど、アタシの目の前が急に暗くなった。
触ってみたら布の感触。
なんの布？
引っ張ってみたけど、どっちにどう引っ張ってもとれる気配無し。
「トシー！ちょっと助けてよ！」
「普通の帽子に見えるけど脱げないの？」
「脱げないから手伝えって言ってんでしょ！？」
「その帽子魔法使いみたいだねぇ」
「のんきなこと言わない！」
顔を覆うくらいの大きさで、「魔法使いみたい」に見えるって・・・
なんてマンガみたいな・・・
「ナナカ・・・あのさ・・・」
「なによ！まだ手伝ってくれてないわけ！？」
「いや、触れないんだけど。ソレ」
「はぁ！？」
アタシはちゃんと触ってるのにトシが触れないなんておかしい。
「ナナカの髪を触った感じだったよ？」
「アタシは触られてないわよ！」
どうなっちゃってるの？
アタシこのままだったら・・・大好きなウェインズのライブに行けないじゃない！
行ったところで見えないんじゃ意味ないわ！
「やっとみつけましたぞー」
「・・・？トシ、なんか言った？」
「なんのこと？」
「見つけましたぞー」

ナゾの声は耳元でささやくような大きさで、だけどしっかりとアタシを指して言っているようだった。
「だれ？」
「ぼくはトシだけど・・・？大丈夫？」
「アンタじゃないに決まってるでしょ！？」
「七つめの月二つめの御仁。長い道のりでしたぞ」
「は？」
「ナナカ？どうしたの？」
ナナツメノツキフタツメノゴジン？何のことだかさっぱりわかんない。
トシはあてにならないし、これどうしたら良いのかしら。
「ねぇトシ」
「ナナカ、ソッチはでんちゅ・・・・・う」
がつーんと頭に衝撃が走った。
前が見えないまま歩こうとして電柱と激突なんてシャレになんない。
あったまきた！
「トシ！ハサミ持ってきて！ハサミ！」
「なんに使うの？」
「コイツを裁断するに決まってるじゃない！」
「お・・・お、おまちくだされー」
ジャマなんだから切ったらいいのよね！なんで今まで気がつかなかったのかしら。
「大事なお話がありますゆえ、今しばしお待ちを・・・」
「1分だけなら聞いてあげる」
「1分で持ってくればいいの・・・？」
「トシはさっさとハサミ持ってきなさいよ！」
その間だけは聞いてあげても良いわ

2：不思議の魔法＜帽子？＞

お待ち下さるとは感激ですぞ。
「では、しばしお聞き願いましょうぞ」
「1分だけね」
「あいや、ソレでは話が全部は終わらないと思いますぞ」
「トシがハサミ持ってくるまでの時間つぶしだもの。話全部聞くなんて言ってないわ」
「いやいやいや。全部聞いてくだされー」
聞いていただかねば・・・
長い道のりでしたぞ・・・
「早くしないと1分終わるわよ？」
はぅっ。世界は無情ですぞ・・・
「この星に散らばった魔法使いの一族をお捜し申し上げて・・・」
「あ、ありがと」
「吾輩は七つ月二つめの御仁を・・・」
じょきん。
はぅっ！
「よく切れる鋏ね」
「振り回したら危ないよ、ナナカ」
「まだ話は最初の『さ』くらいでしたぞ！？」
「1分って言ったじゃない」
「ナナカ、コレ喋ってるの？」
「そうみたいなのよ。面白いと思わない？」
吾輩はどうやら二つに裁断されてしまったようですぞ・・・
「さっきまで何も聞こえなかったのに」
「この辺に口があるんじゃない？」
吾輩の中に手を入れて探られておりますぞ・・・
「うひゃっ」

くすぐったいですぞーーー！？
「どうなってるのかしらね？」
「面白いねぇ、さっきまで触れなかったのに」
二人で代わる代わる吾輩を弄んでおりますぞ・・・
「吾輩の話は続けてもよいのですかな・・・？」
「あー、なんか言ってたわねそういえば」
「ハサミ持ってくるまでになんかあったの？」
「おぼえてなーい」
「吾輩は大事な話をですな・・・」
「はっけんはっけーん！」
吾輩の遙か頭上からトーンの高い声が聞こえてきましたぞ？

3．ほうきの魔法<ナナカ>

上の方から
「はっけんはっけーん！」
テレビアニメでよく媚びを売ってる系統の女の子の声がした。
アタシはその系統の女はちょっと興味ない。トシは「可愛いんじゃない？」とかアキバ系な事を言ってる。
「うちの勘はあたりやでぇ！なぁ、ボーフラ」
ボーフラ？ボウフラの事かしら。
声に似合わず関西のイントネーションは性格がキツメの印象をうける。
京風の言葉なら少しありかもしれないと思ったアタシも結構アキバ系かもしんない。
「アンタ、はよこっち見ぃや！無視かいな！？」
「見えるならとっくに見てるわよ！トシ！ハサミ！」
「骨董品っぽい帽子だけどハサミ入れちゃっていいの？」
トシの声は相変わらずおずおずしてる。ちょっといらつく。
「吾輩の話は・・・」
「ハサミ！」
手を出しつつ、帽子っぽい声を遮った。
ガッコウ休んだらせっかく狙ってる皆勤賞が取れなくなるもの。
「ちょ、ちょいまちーや！アンタその帽子何かわかってへんの！？」
「知らないわよこんな変な布きれ。とれないなら切るまでだわ」
「あかーん！アンタ、選ばれとぉのにそないなことしたらアカン！」
「選ばれるって何よ。なんかの懸賞に応募したわけでもないのに」
「魔法専門機関って知らへんの？」
さっぱり。と答えようとしたところでトシが小さく「知ってるかも」とつぶやいたのが癇に障った。
「ソレを吾輩は言おうとしてたのですぞ・・・」

「うちが教えたる。それまでハサミはしもときや」
偉そうに聞こえて、やっぱりちょっとむかついた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2464d/

晴れのち雷（魔法注意報）

2010年10月21日23時11分発行